

学校点描

続

校長室の前にバネで階段を降りる、昔のおもちゃを置いています。時々生徒が集まって歓声が聞こえます。

《M中学校》

NO.12

R6. 10. 07

担当：校長

9月16日（月）にマーチング県大会で、吹奏楽部が金賞でT大会出場を決めました。いよいよこれからが本番です。

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。さまざまなご意見などに目を通しながら、結果を分析し、学校運営協議会にて更なるご意見をいただいた後にご報告いたします。

令和6年度“いじめ・非行をなくそう”Y県民運動標語のM上地区優秀作品の最優秀に

C・Rさんの『その気持ち 　いつかじゃなく 今助ける』が選ばれました。

9月28日、29日に地区新人大会が開催されました。主な入賞は次のとおりです。卓球：男子団体優勝、女子団体準優勝、女子シングルス：G・Sさん第5位。男子シングルス：O・Gさん準優勝。O・Rさん第3位。ソフトテニス：男子団体優勝。女子団体準優勝。バスケットボール：男子準優勝。女子第4位。柔道：女子団体第3位。女子44kg級T・Sさん準優勝。52kg級T・Yさん準優勝。男子55kg級K・Sさん優勝。66kg級S・Kさん第3位。新チームもよくがんばりました。

頭を下げた父が与えたもの

「親が亡き後を思うとわが子が心配になります。」

保護者との相談の中で、ときどき保護者の方から聞いてきた言葉です。親というのは、どうして、そんなに自分が亡くなった後のことまで心配するのでしょうか。きっと、親や保護者ほど、この世でわが子のことを心配してくれる人間は、いないからだと思うからなのでしょう。だからといって、親が死んだ後も十分な蓄えを残そうとするのは親としての本当の有り様ではないでしょう。

Aさんという保護者の方は「人」に魚を与えると1日で食べてしまう。でも、人に釣り方を教えれば生涯食べていく事が出来る“という中国の格言がなるほどなあと思っています。せめて、子どもには”釣り方“を授けられたら私はきっと安心すると思います。」と語っていました。



今年度は積極的に学校の外に出て学習する教育活動を仕組んでいます。10月9日、10日は、2年生の職場体験学習の2回目です。夏休み中に1回目を実施しています。お客様でなく、本当の意味で社会で働くには何が必要かを実感してほしいと思い、今年度は2回実施しています。

1回目の実施した後、各事業所さんから感想をいただきました。「与えられた

業務をしっかりやり遂げた」とお褒めもいただきましたが、「挨拶の声がまだまだ小さい」「もっと積極的に動いて欲しい」という、働く者としての心構えのアドバイスもあります。その他にも、生徒の言動を見て、厳しいご指摘もいただきました。ありがたいものです。

学校は成功の体験で満ちあふれています。社会に出て一番ぶつかるのは、失敗の体験と、そのときのリカバリーです。学校では教えることができないことが、社会の中の実体験の中にはいっぱいあります。教科書にも書いていない大切なことが、社会では必要となることを教えてもらえたことがありがたいのです。

中国の格言を教えてくれた保護者のAさん。父親であるAさんは大家族で、自分一人の収入で4人の子と祖父母を養っています。中学校は制服だから助かる



と言っていました。そのAさんの二男が修学旅行中に、同じ班の生徒とけんかして殴ってしまったのです。旅行後に、Aさんは二男とともに、殴った相手の生徒の家に行って、わが子の前で深々と頭を下げて謝罪しました。でもAさんは、けんかした話を聞いたときから、わが子を叱りませんでした。けんかのき

っかけは、あるレストランに入っても何も頼まないAさんの二男に対し、リーダー格の男子生徒が「貧乏人!」と言った一言だったのです。家族みんなへのお土産を買った二男には、もうお小遣いは残っていませんでした。父親が頭を下げた後、家路につく途中で、二男は泣きながら父に頭を下げたそうです。

この話を聞いたとき、わたしは、Aさんがわが子に、この社会を生きていくための本物の“釣り方”を与えたかったのだと思いました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。